



加古川観光大使・浪曲師
きょうやま こうた
京山 幸太 さん

新観光大使インタビュー 浪曲で地元を盛り上げます！

人間国宝の二代目京山幸枝若さんに師事し、文化庁芸術祭新人賞や咲くやこの花賞などの受賞歴がある若手浪曲師の京山幸太さん。

今年の8月に加古川観光大使に就任された京山幸太さんに、地元への想いと浪曲の魅力について語っていただきました。

浪曲との出会い

私は高校卒業までを加古川で過ごしました。中学時代は野球部に所属し、左目の怪我をきっかけに音楽の道へ。ジャズやブルースなどのジャンルに興味を持ちながらも「日本独自のかわいい音楽はないだろうか」と考えていました。

そんなある日、尊敬する作曲家が「多くの音楽のルーツには浪曲がある」と話しているのを知りました。当時は

浪曲について全く知らなくて、インターネットで調べると、関西の浪曲協会の会長（二代目京山幸枝若さん）が大阪で教室を開いていることを見つけ「これは生で聴くしかない」と、すぐに教室へ向かいました。そこで聴いた師匠の浪曲は、まさに衝撃でした。その節（ふし）と声の力強さ、格好よさに心を驚掴みにされ、すぐに「弟子にしてください」とお願いしました。

その時に師匠から「半年で一席覚え、浪曲が向いていると思ったら弟子にしてあげよう」と条件を出されました。その後は必死に練習し、拙いながらも一席やりきった結果、正式に認められて2013年の9月に弟子入りとなりました。

浪曲の魅力と自由な表現

浪曲は、落語や講談と並ぶ「日本三大話芸」のひとつです。物語を節（歌うように語るパート）と啖呵（登場人物の台詞パート）で構成され、曲師の三味線のとの掛け合いによって演じます。物語の面白さに加え、音楽的な快感も味わえる点が一番の魅力ですね。日本的な音階が用いられているので、どこか馴染みのある心地よさも感じられると思います。

また、視覚的な演出が少ない分、聴き手が自由に情景を想像できるのも浪曲の特徴です。おまけに、伝統芸能の

中でも比較的自由度が高いと感じています。型はありますが、型破りも許される柔軟性に、私は強く惹かれます（過去には、ボディビル浪曲やパラパラ浪曲等にチャレンジしました）。

文化の根付くこの町に、演芸の灯を

浪曲には即興性もあります。同じ演目でも、その日の曲師との掛け合いやお客様の反応によって、全く違うものになります。まるでブルースやジャズのセッションのように二度と同じものではなく毎回が新鮮で、違いを楽しめます。

今は寄席を観られる場所は限られています。私共も地元加古川で定期的な会を開き、演芸の魅力をさらに広めていきたいです。

この播州地域には、うちの師匠だけでなく、多くの伝統芸能に携わる方々がおられ、話芸や物語文化が根付いた風土があると思います。そんな地域で、これから観光大使として浪曲を通じて、少しでも地元貢献できればと思っています！



浪曲を熱演する京山幸太さん